

趣旨説明

「学び」からみる高等教育

大学評価・学位授与機構
川口 昭彦

大学評価フォーラム

- 評価への取組 改善への取組（2007.9.20）
- 大学評価の戦略的活用と方法（2008.7.7）
- 内部質保証システムの充実をめざしたアカデミック・リソースの活用 – 個性ある大学づくりのために –（2009.8.3）
- 学習成果を軸とした質保証システムの確立 – 学習成果の効果的なアセスメント・可視化・発信とは –（2010.8.2）
- グローバル時代における新しい質保証 – 国際機関の取り組みからみえる「機能」とは –（2011.10.26）
- 「学び」からみる高等教育の未来（2012.7.23）

高等教育における質保証のグローバル化 (昨年の大学フォーラムの論点)

- 世界中の高等教育機関および高等教育制度の大半が、内部・外部質保証制度を有しており、今まで何らかの成果を挙げている。
- 高等教育制度の大半で、「質向上」が重要課題であるという認識が共有されている。
- これまでの成果を評価する時期である。

Prof. Dirk Van Damme (OECD, Head of CERI) の講演より

質保証のグローバル化の課題

- アカウンタビリティ(社会に成果を示す)と改善(質の向上に反映させる)という機能の両立は、依然として非常に難しい。
- インプットとプロセスに関する基準が、学習に関するアウトプットの測定やアウトカムの実績分析よりはるかに重要視されている。
- 最低基準の指標が、卓越性指向の基準より広く使用されている。

質保証のグローバル化の将来

- 質保証の仕組みや質保証機関は、アクセスを拡大して成功を引き出したり、革新的な教育や学習の仕組みを開発したり、教育課程のカリキュラムを刷新するなど、高等教育における革新的な開発を支援すべきである。
- 学生・大学院生の国際間移動、学位や単位の交換、高等教育と研究全般のグローバル化等によって、より強固な質保証の国際的枠組みが必要となっている。

高等教育の質保証システム

- **内部質保証**: 第一義的に機関自身の責任である。
- **外部質保証**: 設置基準、設置認可(事前規制、最低限の水準を保証・確保)、認証評価(事後チェック、適格認定と教育研究の質の向上を促進)
- 内部質保証は、各機関が独自の考え方に基づいて実施しても、社会から観て理解できないこともある。内部質保証にも、ある程度共通的な基準や指標が必要である。
- 一方で、機関の特色(個性)を明確に発信しなければならない。

質保証の最重要課題は学習成果

- 教育 = 教授 (Teaching) + 学習 (Learning) であり、学生の学習成果 (Learning Outcomes) について社会に明示することが重要である。
- 期待される学習成果 (Expected Learning Outcomes) を明示する。
- その学習成果の達成状況 (Achieved Learning Outcomes) を定期的に分析する。
- その分析結果を社会に向けて発信するとともに質の改善・向上に資することが求められる。

学習成果を示す方法

- 学生を対象としたアンケート結果の分析
- 学習ポートフォリオ (Learning Portfolio) の作成
- 学内外テスト結果の分析
- 卒業生、その雇用者などを対象としたアンケート結果の分析

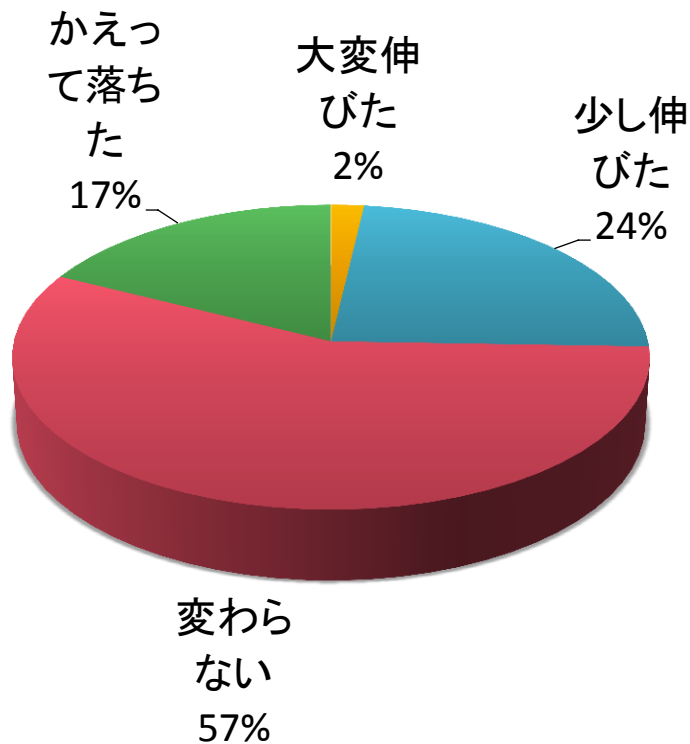
東京大学教養学部「英語Ⅰ」 の学習成果（事例）

- 平成5年度から実施した英語カリキュラム改革の中の「英語Ⅰ」は、英語の聞く力の育成をめざした(Expected Learning Outcomes)。
- 学生を対象としたアンケート結果の分析例
- 学生を対象としたアンケートの記述および有識者による外部評価コメントの一例
- 1・2年生を対象とした実力テスト結果の分析例

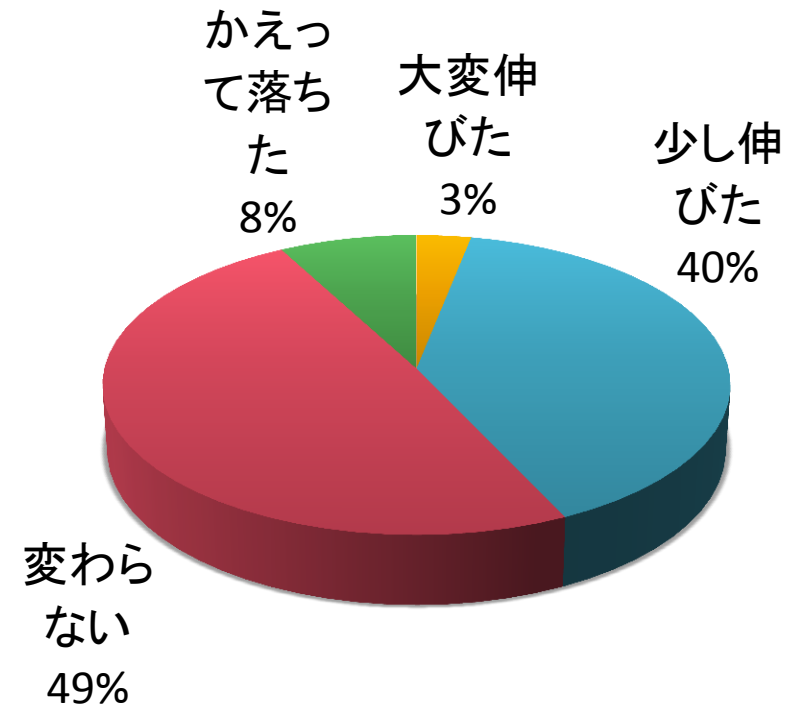
東京大学教養学部 教育・研究評価報告書(平成6年7月)

学生アンケート結果

英語を読む力



英語を聞く力



2年生(2,546人)を対象に平成6年4月に実施

テキストに対する反応

- 『The Universe of English』は大変面白いと思った。あれ自体が様々な学問への Introduction となっており、教養学部の教材として非常にふさわしいと思った。(学生)
- この教科書で取り上げられている主題は、カオス、音楽、内視鏡、人の顔等々、「およそ知的と呼べそうなものなら何でもあり」なのである。「学生たちの知的欲求に即した形で行う」という前期課程外国語教育の哲学の実践なのであろう。(外部評価委員)

実力テスト結果

	受 験 人 数	問一 (読む力)	問二 (聞く力)	問三 (聞く力)	合 計
1年生平均点	3,459	19.83	19.42	12.02	51.27
2年生平均点	2,572	21.29	21.17	17.53	60.00
得点の伸び方 (%)		7.36	9.01	45.84	17.02

平成6年4月に同一問題による実力テストを実施。

読む力が 7.36%、聞く力が 23.09% それぞれ上がったいる。

問三に限り、2年生については、平成6年4月ではなく、その2ヶ月前の、1年冬学期期末試験で実施した結果を掲載。

学習成果のアセスメントでは

- 機関（組織）、教育プログラム、特定の構成要素について測定する。
- インプット、プロセス、アウトプット、アウトカムに関して、機関（組織）内外で設定された基準（ベンチマーク）に照らした学習成果の質的・量的測定で行われる。
- プロセスの要所で対象の状態を測定することが必要となる。
- 計画策定時に設定された学習成果の達成状況を説明することが求められる。

U.S.A.における高等教育の課題と今後

- Dr. Richard A. DeMillo, “Abelard to Apple: The Fate of American Colleges and Universities” — 大学への警鐘：現代の世界の動きは高等教育機関に重大な影響を与える。
- Dr. Staci Provezis, “Student Learning Outcomes Assessment in the United States: Trends and Good Practices” — 学習成果アセスメントの取り組みは、Accreditation（適格認定）のためだけではなく、自発的な質向上の動機となっている。